

# 延岡花物語 2019

## 観光イベント きょうから

#3/10、11日 観梅会 23、24日 このはなウオーク

延岡市で早春の花々を楽しむ観光イベント「延岡花物語2019」は、きょうからスタート。暖かな冬となっている今年は例年より早く開花が始まり、メインイベントの一つ「このはなウオーク」(23、24日)の会場となる同市野地町の五ヶ瀬川堤防では菜の花が咲き誇り、多くの人の訪れを心待ちにしているようだ。

延岡花物語の開催期間 2月10、11日の本東寺慧一を飾り、メインの「こ」24日、「ワイワイ花物語」は2月1日～4月7日。「日梅観梅会」オープニングのはなウオークは同23、1は3月22日～4月7日。



きょうから「延岡花物語」がスタート。五ヶ瀬川堤防で咲き始めた天下一ひむか桜(きょう午前、延岡市野地町)

各イベントでは早春に咲く花々を鑑賞しながら、グルメやステージイベントが楽しめる。このうち、このはなウオーク会場の五ヶ瀬川右

岸堤防にある300本の「天下一ひむか桜(川津桜)」と約100万本の菜の花は、例年より10日、2週間ほど早く咲き始めたという。堤防に沿って咲く黄色い菜の花はウォーキングをする人の目を楽しませ、ちらほら咲き始めた桜は本番当日を待ちわびているよう。

延岡花物語実行委員会では伸びきった菜の花の一部を刈り込んで、週間後に控えた本番に向けて再び花芽を出す作業を行った。

# 第23回若山牧水賞の授賞式

## 穂村さんに賞状やトロフィー

### 宮崎



若山牧水賞を受けた穂村弘さん(31日、宮崎観光ホテル)

第23回若山牧水賞の授賞式は31日、宮崎市内で開かれ、歌集「水中翼船炎上中」(講談社発行)で受賞した歌人の穂村弘さん(56)―東京都在住―に賞状やトロフィーなどを贈った。主催は、県や延岡市、日向市など。夕刊デイリー新聞社など後援。

く切れ味、センスがあると感じました。一ファンとしてうれしく、今後のさらなる飛躍を期待します」とあいさつした。穂村さんは「牧水の名前を冠した賞をいただけとてもうれしい」と感謝し、「普通の人が一度も考えたようなことがない驚くような疑問を、牧水の歌の調べに乗せて表現されると、自分の中にも不思議な何かがあったような気がしてくる」などと、受賞作に通じる牧水への思い入れを語った。

札幌市出身で、上智大学文学部英文学科を卒業。平成20年に「短歌の友人」で第19回伊藤整文学賞に輝くなど数々受賞。歌誌「かばん」会員で、日経歌壇選者。主な歌集は「シンジケート」「ドライ ドライ アイ ス」など。

賞は日向市東郷町坪谷に生まれ、日本短歌史に偉大な足跡を残した若山牧水の業績を顕彰し、短歌文学界の発展に貢献することを目的に平成8年に創設。全国の有力歌人にアンケートを行い、上位の歌集4作品を審議して選定した。

同賞運営委員長の河野知事は「受賞決定前にたまたま穂村先生のエッセイを拝見して、大変面白